

第 2 3 回市民動物園会議

会 議 録

日 時：平成 2 7 年 3 月 3 1 日（火）午後 3 時開会
場 所：円山動物園内 動物園プラザ

1. 開 会

○事務局（田中円山動物園長） 時間となりましたので、これから、第23回市民動物園会議を開催させていただきます。

円山動物園長の田中でございます。

本日は、お忙しいところをご足労いただきまして、ありがとうございます。

中山委員からは欠席の旨、それから、小山委員、河原委員からは遅参する旨のご連絡をいただいております。3時にお集りの予定の皆さんにはおそろいいただきましたので、始めたいと思います。

2. 挨拶

○事務局（田中円山動物園長） それでは、開会に先立ちまして、今井みどり環境担当局長からご挨拶を申し上げます。

○今井みどり環境担当局長 今井でございます。

いつもお世話になっております。

皆様には、日ごろから、魅力ある動物園づくりのため、ご支援、ご協力をいただきまして、本当にありがとうございます。また、今日は3月31日ということで、年度末という何かと慌ただしい中、このように出席していただきまして、本当に感謝を申し上げます。

報道されており、重なる部分がございますけれども、2点ほど私から報告させていただきます。

一つが、象の導入についてです。

今年度の最重点課題といたしますか、大きな課題ということで、動物園で一生懸命取り組んで、今、何を交換するかという最終段階まで来ています。12月に、向こうから象を4頭いただくことについての仮調印を済ませておりまして、今、こちらから何を出すかという調整を進めています。それが順調に進みますと、4月下旬に上田市長に相手国であるミャンマーに行ってください、象の導入についての調印をするという段取りになっております。

2点目は、これも大きな課題で、目標100万人達成のため、今年度も取り組んでいたのですが、結果的に後でご報告があるかと思うのですが、87万人という状況でございます。

明日から新年度が始まります。同時に、4月1日からホッキョクグマの赤ちゃんの公開、そして、この秋にアフリカゾーンのオープンという明るいニュースもございます。そういうイベントといたしますか、ニュースをベースにしながら、動物園に今までなかなか来られない方が動物園に積極的に来ていただけるよう、足を運んでいただくような営業活動を今後も続けていく必要があるかと思っております。そういった意味では、来年度も目標に向けて取り組んでいく予定でございます。

本日の議題ですが、資料には来園者の状況等が載っております。皆様から、市民にと

ってより魅力ある動物園となりますよう、忌憚のない意見を頂戴できればと思います。人員体制や予算の制約がありますので、そのまま実施できないこともあろうかと思えますけれども、委員の皆様の貴重な意見や提案を生かしていきたいと考えております。

最後に、私事で大変恐縮でございますけれども、ここにいる事務局の木村課長、そして、私は今日をもって動物園の担当から離れます。しかし、今後も動物園を応援する市民の一人として、いろいろな機会に動物園の魅力を積極的に伝えていきたいと考えております。そのことを申し上げまして、簡単ですけれども、私の挨拶とさせていただきます。

今日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（田中円山動物園長） みどり環境担当局長の今井は、この後、公務がございますので、ここで退席させていただきます。

それでは、以降の進行を議長の金子先生にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

2. 議 事

○金子議長 それでは、年度末の最後の日にお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

今日も議事がいっぱいありますので、円滑に進められるよう、皆様にはご協力をお願いしたいと思います。

それでは、早速、議事に従いまして進めていきたいと思えます。

まず、1の平成26年度来園者状況について、事務局からご説明をいただけますでしょうか。

○事務局（木村経営管理課長） 今年度の昨日までの来園者の状況についてご説明を申し上げます。

1 1月に前回の会議がございまして、その時点までの入園者の状況についてはご説明を申し上げましたので、1 2月以降について細かくご説明を申し上げたいと思えます。

先ほど、局長からもお話がございましたが、資料1の月別合計入園者数比較の一番下の紫色で示しているところが入園者の数でございます。

平成25年度以前につきましては3月31日までの数字で、26年度の数字は、昨日、3月30日までの数字でございまして、86万9,760人の方に入園していただいております。本日もかなりのお客様にお出でいただいておりますので、87万何がしが今年度の入園者数の最終的な数字になろうかと考えております。

それでは、1 2月以降の状況についてご説明を申し上げます。

1 2月は、上旬から雪が多うございまして、入園者が伸び悩んでおりました。夜の動物園を1 2月20日に実施し、かなりの数のお客様に来ていただきましたけれども、最終的に1 2月の入園者数は、1万4,027人と、昨年よりかなり少ない人数となっております。

25年度はかなり天候に恵まれたということもございましたし、その前の24年度はアジアゾーンが12月12日にオープンしたことによる集客増がありましたが、26年度につきましては、それにかわる目玉をなかなか打ち出すことができず、天候も悪かったことでもございまして、かなりの減となっております。結果として、12月時点は前年度よりも入園者数が12、3%ほど少ない状況でございました。

1月は、5万3,429人と、平成25年度、24年度よりも多い数字を記録することができました。平成24年度は、先ほど申し上げましたように、アジアゾーンのオープンの関係で大変入園者数が多かったのですが、それよりも多くのお客様に来ていただくことができました。正月三が日は大変穏やかな天気でもございまして、おかげさまで、三が日にたくさんのお客様に来ていただくことができました。

あわせて、1月の1カ月間に実施しました正月の企画展が大変好評でございました。ダイオウイカのほか、北海道大学から深海生物をお借りして標本展示をしたり、あるいは、生きているオウムガイやダイオウグソクムシをお借りし展示しまして、大変多くのお客様に来ていただいております。過去10年間で最高の人出でございまして、恐らく、円山動物園の1月の入園者数としては、記録がきちんと残っていないのではっきりと申し上げられないのですが、開園以来の入園者数ではないかと認識しております。いかんせん記録がないので、断言はできないのですが、そういうふうにて捉えております。

2月は、スノーフェスティバルということで、昨年を引き続き、雪まつり期間中の無料入園を実施しております。氷の滑り台等を設置して、お子さんたちに喜んでいただくようなプログラムをご用意させていただいておりますが、期間中7日間で2万1,064人のお客様においでいただいております。

ただ、この数字は昨年と比べると16%減っております。後半の期間に雨が降りまして、雪まつりでも最終日の来場者数が落ち込んだと聞いております。こちらでも雨降りが影響いたしまして、昨年度と比べて16%の減と、大きく落ち込みました。しかしながら、4万人の数字は何とか確保できたところでございます。

3月につきましては、それこそ雨が降ったりもしましたけれども、気温が大変高かったので、それにつられて大変多くのお客様においでいただきました。あわせて、去年の7月、8月に実施しました学生を対象にしたパスポートの半額割引を引き続き実施いたしまして、大変多くの学生に来園していただいております。

特に、春休みに入った26日以降は、温度も高く、天候も大変よろしゅうございまして、平日であるにもかかわらず、2,000人から3,000人のお客様にお出でいただいているところでございます。

資料1の表は、6年間分の数字が出ていますが、6年間で最も多かった年の数字を黄色で塗っております。3月はこれまで一番多かった昨年度を既に上回っておりまして、本来であれば26年度のところを黄色で示すはずでございまして。ただ、今日もお客様に来ていただいております。5万までは行かないですけれども、もうちょっと多い数字をあらわ

すことができるかなと思っています。

平成26年度につきましては、昨年度のホッキョクグマの双子のような目玉となるような動物等の話題が少なかったこともありますし、また、現在、アフリカゾーンも建設中であり、お客様の来園になかなか苦戦したところがございますけれども、1月の深海生物展に代表されますように、企画をいろいろと工夫したこともあって、前年度と比べまして9%台の減少にとどめることができました。

しかしながら、お客様を呼び込むような仕掛けについて、今思えばもう少しできたのかなということもございますので、新年度に向けて改めて広報活動の充実とともに、工夫をしてみたいと考えております。

入園者の状況につきましては、以上でございます。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、平成26年度来園者状況についてご質問等がございましたら、お願いいたします。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 続きまして、平成27年度予算等について、事務局からお願いいたします。

○事務局(木村経営管理課長) 引き続き、ご説明を申し上げます。

資料2は、平成27年度予算等概要という見出しのA4判の縦1枚でございます。

歳入と歳出に分かれております。

入園料につきましては、入園者数を今年度と同じ100万人と見込んで予算を組んでおります。平成27年度につきましては、アフリカゾーンのオープン等もありますので、27年こそは100万人を実現したいと考えております。

同じ100万人を見込んでいるのに、入園料の予算が昨年度と比べて1,000万円近く減っております。これにつきましては、近年、年間パスポートの利用者が増えていること、あるいは、高齢者の方の入園の割合も増えている状況がございます。有料、無料、団体割引、パスポートを含めたお客様1人当たり単価が下がっておりまして、それを改めて精査し、実態に合うように予算金額を計上した結果、昨年度よりも少ない金額を見込んでおります。

次に、売店使用料、傷病鳥獣保護費です。

売店使用料は文字どおりでございますし、傷病鳥獣保護費につきましては、道から野生の鳥などの保護等の委託を受けた場合にいただくお金でございます。

また、寄附金、広告料等は、今年度の予算よりも多くいただけることを見込んでおります。

以上から、平成27年度につきましては、総額で3億1,600万円余の歳入を見込んでおります。昨年度と比べまして、予算では360万円余の減を見込んでおります。

次に、歳出についてです。

今年度は、ご承知のように、市長選挙がございます。一部の予算につきましては、市長

選挙の後で査定を受けることとなります。ですから、既に計画で決まっているようなもの、あるいは、計上の必要である管理費のようなものを計上しております。

平成26年度の予算が20億8,700万円余でしたが、27年度につきましては17億3,900万円余でございます。3億円ほど減っていますけれども、これはアフリカゾーンの工事の予算が平成27年度はなくなっているためです。かわりにホッキョクグマの新しい施設の建設もあるのですが、昨年度のアフリカゾーンの建設に計上した規模のほうが今年度のホッキョクグマ・アザラシ館よりも大きいものですから、大きく減っております。

大型動物導入検討調査費が動物園運営管理費にございまして、ゼロ円になっております。これは、象の導入調査の予算でございます。象を導入することが決まりましたので、この事業については一旦終わりますけれども、今度は象をどういうふうに飼育するかなど、導入に向けた具体的な検討を行うこととなります。ただ、それについては、先ほど申し上げましたように市長選の後の予算で査定をされる予定になっております。

動物園整備費につきましては、主に施設の建設費です。

先ほど申し上げましたように、ホッキョクグマ・アザラシ館が主な要素でございます。

アフリカゾーン開業準備事業費を800万円ほど計上してございますけれども、アフリカゾーンをオープンするに当たりまして、現在、熱帯動物館に主におります動物たちを移動させるための経費その他を計上しております。輸送等に重機を使ったりもしますので、これぐらいの金額を必要としているところでございます。

参考として、市民動物園会議で、毎年、基本計画の進捗状況をご報告する際にもとにしております経理のデータをお示ししております。これにつきましては、次回の動物園会議で基本計画の進捗状況の報告とあわせて改めてご説明をさせていただくこととなりますけれども、今の段階でほぼ決算の数字がまとまっていますので、数字をお載せしております。

まず、収入関係です。

入園者数は、当初、100万人を見込んで予算を計上しておりますけれども、実際は87万人にとどまっています。あわせて、お客様1人当たりの単価が下がっていることなどが原因で、平成26年度の実際の収入の見込みは2億2,000万円程度と見込んでおります。

広告料収入につきましては、目標として300万円を上げているのですが、実際の決算値は半分ぐらいの収入にとどまると思います。これは、アフリカゾーンのネーミングライツの協賛金の関係で、平成26年度につきましては、契約の関係により、1年分のお金が入ってこない契約になっているものですから、その部分も影響しているかと思えます。あわせて、ホームページ等のバナー広告等が不調だということが挙げられます。

寄附金につきましては、平成25年度につきましては、白クマラーメンなどの一部商品で売り上げがかなり上がった結果、多くの企業からの寄附金が多かったのですが、それが一段落つき、予算とほぼ同じぐらいの1億1,600万円余となっております。

雑収入等とは、売店の使用料や園内の売店の使用料、設置の負担金などです。例えば、電柱や携帯電話の電波塔の基地等の負担金等がこの中に入っております。これはほぼ予算どおりの収入となっております。

かわって、支出の関係でございます。

水道料金、重油・天然ガス代、電気・プロパン代につきましては、目標、あるいは、昨年度の実績に比べて、いずれも増えております。施設が拡充されるに従って、水道料金が伸びてきます。重油、電気・プロパン代につきましては、使用料を抑えているところがございますが、平成26年度につきましては、原油高その他の影響による単価のアップに伴いまして目標をかなり超えております。

次に、維持管理委託費です。例えば、警備や券売等の委託金額でございますが、契約がなかなか成立しない状況もございまして、結果として契約金額が高どまりをしており、予定よりも大幅に上がっております。

エサ・薬品代につきましても、平成25年度よりも増えております。

イベント・事務費につきましては、絞り込みを図っているところでございますけれども、目標にはまだかなり遠い状況です。

支出の合計は、職員の人件費を除いて、4億1,798万円余です。最終的にはここで挙げている収入と支出を均衡させることが目標となりますけれども、平成26年度は1億6,200万円余の赤字ということで、乖離がございます。平成27年度につきましても、支出を縮減する余地が少ないことから、収入と支出の乖離を1億6,000万円近く見込んでおります。

動物園基本計画では、平成27年度の段階で収支差を400万円まで落とすこととなりますけれども、この計画との乖離といたしましては、予算ベースで1億4,500万円余という状況になっております。基本計画との収支目標の関係については、次回の会議で改めてご報告を申し上げますけれども、それも含めてご説明をさせていただきました。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、この予算概要につきまして、ご質問等があればお願いしたいと思います。

○小山委員 去年も聞いたような気がするのですが、例えば、平成27年度予算の支出は4億7,600万円ですね。これは上の歳出で動物園経費の中に含まれるということですか。

○事務局（木村経営管理課長） そうです。

○小山委員 動物園経費にはほかに何があるのですか。

○事務局（木村経営管理課長） 臨時職員や非常勤職員の人件費などが上の表に入っており、それを抜いたものが下の表となります。

また、動物園の運営では、このほかに正職員の人件費もございまして、それは動物園の予算ではなく、札幌市の職員費となりますので、それは両方に入っておりません。

○高山委員 もし差し支えなければ、来年度予算のホッキョクグマ・アザラシ館の建設費

が11億5,000万円とかなり大きいですから、もう少し教えられる範囲で情報をいただければと思いました。

○事務局（木村経営管理課長） 今年度も11億5,000万円で、2カ年の事業でございます。2カ年を合計しますと、大体22億5,000万円ぐらいの事業になります。

今の世界の熊館がございますけれども、それは残しておきまして、新たに施設をつくることになります。

場所としては、今、アザラシがいるプールの奥側を広げて、上の部分から園路の一番端になっていて、資材などを置いていてお客様に入っていただけない場所があるのですが、そこを越えて、円山西町のバスの方向に伸ばして建設する予定でございます。

パースを持ってきてもらえますか。

新しい施設ができましたら、ホッキョクグマが広くて深いプールで泳いでいる姿を見られます。

○事務局（田中円山動物園長） 水中トンネルになっています。

基本的には、ホッキョクグマとアザラシは捕食関係というか、アザラシが餌になっているので、それをセットでござんいただくことになります。また、プールの中にガラスのトンネルをつくって、下からシロクマとアザラシが泳いでいくところが見られるというようなことをコンセプトにしています。

○事務局（木村経営管理課長） 今、予想図がございますので、お持ちしますけれども、工事は平成29年3月に終わらせたいとは思っています。ただ、動物をそこに移すのはもうちょっと先で、平成29年度中を予定しているところでございます。

○事務局（田中円山動物園長） ホッキョクグマは、うちで生まれて国内で46頭になったのですが、そのうち、デナリ、ララの子どもが8頭になってしまったのです。子どもは雌が多いものですから、血統的に雄を入れないとだめになります。ただ、国内ではもうだめなので、海外からの血を入れなければなりません。

ただ、海外の動物園から譲り受けるためには、それなりの施設を用意しないと、そんな狭いところに大事なシロクマをやれないということなのです。それを満たすために、一定規模の新しい施設を設けて、海外から導入しようとしているのが最大の目的です。

今ある世界の熊館は、産室がもう整備されていますので、壊しません。そこと新しいところを併用しながら、次の繁殖を目指していかなければならないと考えております。

○高井副議長 下半分の収入支出関係の平成27年度の目標と予算のところですが、この考え方がちょっとわからないのです。

例えば、収入の平成27年度の広告料は、去年の決算見込み1,143万円に対して、目標値がいきなり倍額になっていて、これは現実的なのでしょうか。同様に、支出のところを見ると、重油・天然ガス代は大体高どまりをしていて、去年はちょっと増えているのに、目標をがんと落としていますね。しかし、予算ではがんと上げていて、矛盾なように感じに見えます。

また、エサ・薬品代もきつと減らせないのではないかと素人考えでは思うのですが、目標値がぐんぐんと落としてありますね。しかし、予算のところでは例年どおりとなっています。だったら、別にここを下げなくてもいいではないかというふうに思います。

他方、イベントをすごく頑張っていて、先ほどの深海生物展にしてもそうですが、来場者数に貢献しているような気がするのですが、こちらの目標値が大分低く設定されていて、大丈夫かと思えます。そういうところでわかりにくいのですが、このように、目標と予算に従来までの支出、収入の動きと関係がないように見えるのか、説明をいただくとありがたいです。

○事務局（木村経営管理課長） まず、こちらの目標ですが、現在は動物園の基本計画に掲げている目標数字をそのまま載せているところがございます。

委員がおっしゃられたように、もう既に乖離している状況でございますが、目標は、支出で言えば順調に落ちるはずですが、高どまりしております。ただ、これは平成25年3月に作成したそのままのものを使っているということです。

それから、広告料が143万円から300万円ぐらいと倍になっていることにつきましては、現在、アジアゾーンでは年間100万円でわくわくホリデーという旅行会社にネーミングライツをいただいているところがございます。先ほど説明しましたように、年度の関係で、昨年は端数の収入しかいただけず少なかったのですが、今年度は丸々いただけるだろうと考えております。あわせて、アフリカゾーンの収入も見込んでいまして、アフリカゾーンのネーミングライツが成功するだろうというか、させなければいけない状況ではありますが、それを大体100万円以上見込んでおります。

そして、バナーやホームページでは、昨年度は営業等が十分展開できなかったのですが、積極的に図りまして、何とかこれぐらいはいかなければ困るなということで予算を計上しております。

収入を高く見積もっても、入ってこないと、予算執行上、いろいろと問題が起きますので、ある程度、確実なところで組むのですけれども、そうは言っても可能だと思われるものについては上げているところがございます。

また、寄附金につきましても、今年度は1,700万円を切っている中で2,300万円というのは厳しいところがございます。でも、アフリカゾーンができることによって企業の協賛等が増えるのではないかと、あるいは、増やさなければいけないということとあわせて、ホッキョクグマの子どもが無事に育っておりますので、その辺である程度の収入増が期待できるのかなと考え、計上しております。

○事務局（田中円山動物園長） 補足というか、言いわけにならざるを得ないのですけれども、基本計画上、平成28年度に収支均衡という大目標がございます。ここに書いてありますとおり、平成27年度の目標は三角の400万円ですが、28年度にはこれをゼロにするという目的がございます。

ある意味、これを機械的に年度ごとに傾斜をかけていくと、この目標値にならざるを得

なかったということがございます。そこで、実際に予算を組むとこのような乖離が生じます。それでは、何年後になったら均衡するのかということですが、なかなか難しいものがあるかと思えます。

それから、目標値を定めるときの要素として、先ほどの入園者100万人はいいのですが、単価の低減の割合や支出の消費税、施設の増減のお話なんかも実はあまり加味されていないのが正直なところでございます。時期について明言はできないのですが、なるべく早い時期に現実的なものを踏まえた計画に変えていかなければならないというふうに思っておりますので、その節には別途ご相談をさせていただきたいと思えます。

ただ、今回は、少なくとも、今の基本計画にのっとり目標値といたしましては、こういう数字で、実際に予算はこうならざるを得なかったということをご理解いただければと思います。

お待たせしました。先ほど担当にお願いしておりましたパースが到着しました。

これが一番奥側の熊の展示場になります。先ほど木村が申し上げましたが、この辺が園路の最後のところになってくると思うのですが、そこはかなり急な斜面になっているのですが、そこを掘り下げて新しい施設をつくります。

また、これがプールになります。ホッキョクグマ館がこちらで、ここにアザラシがちょっといまして、水中トンネルがここをこういうふうに横断します。お客様に通っていただけるような通路があって、企画としてはシロクマが上で泳いでいるところを下から人間が眺められるというような施設です。

これがトンネルです。

これらについて、新年度から建設が始まる場所でございます。

○小山委員 ホッキョクグマはアザラシを捕食しないのでしょうか。

○事務局（田中円山動物園長） こちらがホッキョクグマで、ここにちょっと見えるのがアザラシです。ガラス越しに隣が見えるので、ホッキョクグマがガラスに向かって突撃しないかということが心配されます。楽しめればいいかなというところですよ。

○牧野委員 この場所はかなり桜の木があるところですね。

○事務局（木村経営管理課長） そうです。ですから、園内のほかの場所に桜を植えて、動物園では桜も売りにしたいと思っておりますので、桜が減らないよう、植え替えたり、新しく植えたりしたいと思います。

○矢橋委員 先ほど来、ホームページのバナー広告の話が出ていましたが、これはワンクリックで幾ら入るといようなものですか。

○事務局（田中円山動物園長） バナーを1カ月幾らというものです。

○金子議長 ほかはよろしいでしょうか。

広告料として入ってきた収入は、そのまま動物園で使えるのですか。

○事務局（田中円山動物園長） 動物園でというのは難しい表現ですが、予算を組んで支出を立てる際に収入を見込みますけれども、その一部に寄附金があるということが

正確な表現です。

○金子議長 それによって何に使ったというわけではなくて、トータルの支出と収入でこういうふうになったということですか。

○事務局（田中円山動物園長） そうです。その一部に充てられるという感じです。

○金子議長 わかりました。ありがとうございます。

ほかはよろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 それでは、3の平成26年度の冬のイベント事業について、ご説明をお願いいたします。

○事務局（池田調整担当係長） お手元に資料3というA4判横のペーパーがございます。

時系列で、先ほどの冬の夜の動物園からスノーフェスティバルまでの結果を記載しております。

12月20日に冬の夜の動物園を開催しています。ドキドキ体験やサッポロ・シティ・ジャズの演奏会を行っております。この日は、残念ながら雨が降りまして、入園者が694人となりました。前年が1,011人でしたので、それを大きく下回っております。

次に、12月23日に動物にエサやりのクリスマスプレゼントを行っております。これは、40名を抽選し、お子さんがその日だけ特別に餌やりができる、あるいは、間近で餌をあげるところを見に行けるイベントです。この日は曇りのち雪ということで、天気はあまりよくありませんでしたが、869人のお客様がいらっしゃいました。定員は埋まったのですけれども、10人が辞退して、30人が参加いたしました。

次に、12月23日の恋人たちのクリスマスナイトZOOです。夕方の5時から夜の7時半まで、40人のカップルをご招待いたしまして、特別に、エゾシカ・オオカミ舎やアジアゾーンを職員がご案内するというイベントです。これには30の方が参加いたしました。

次に、お正月の3が日は、入園料を無料で開園しております。西門にフードコートとして、移動販売車というか、テントを建てまして、ラーメン櫻島ほか、9店舗が出店しました。また、地元アーティストのライブということで、お手元にチラシもお配りしているのですけれども、新年ODEMUKAEというイベントを行っております。3日間とも地元のアーティストに楽曲を披露していただくなどしていただきました。

あわせて、干支の縁起物ということで、羊の毛を使ったキーホルダーをつくりまして、配布しております。3日間とも天候に恵まれまして、2万1,750人ということで、前年を上回りました。

なお、正月の3日間とも、円山公園駅から動物園までのシャトルバスをジェイ・アール北海道バスに運行していただいております。

次に、深海生物展です。1月1日から31日まで行っております。ダイオウイカの冷凍標本の展示、ダイオウグソクムシ、オウムガイの生体を展示しました。また、深海魚の標

本を28点展示し、深海水圧実験も行いました。非常に好評になり、道内のテレビ局、新聞、全国紙にも取り上げられるなど、広報が非常に充実しまして、5万3,429人と、前年を1万人ほど上回っております。

次に、2月5日から11日までのスノーフェスティバルです。

これは定番の氷の滑り台を中心に、今年はダイオウイカの展示を延長しました。また、雪だるまづくり体験です。また、新しい催しとして、熱帯鳥類館がリニューアルしたことに合わせて、鳥カフェということで、宮田屋珈琲に出店していただきました。通常、鳥カフェだとカフェの中に鳥を飼っている感じですがけれども、この場合は熱帯鳥類館の中にカフェができたという感じです。

あわせて、新千歳空港で観光客へのPRに向けたパネル展を行いました。それから、馬そり体験、2月7日に夜の動物園も開催しています。

また、HBCラジオとコラボレーションしまして、北乃カムイという地元を応援するアイドルのキャラクターがいるのですけれども、そのキャラクターと連携してツイッターやラジオ番組などでスノーフェスティバルをPRしています。このほか、地元ヒーローのソーランドラゴンステージを行っています。

おおむね天候には恵まれていたのですが、8日の日曜日だけ雨が降ってしまいまして、前年を3,000人ほど下回りました。これによってトータルが2万1,064人となりました。前年が2万5,035人ですから、4,000人ほど下回りました。

ここには書いてありませんが、3月には学生割引の年間パスポートの販売も行っています。昨日の時点で1,960件の購入がありました。今日も多少増えると思いますが、およそ2,000件の学生の年間パスポートの購入が見込まれております。

冬のイベントにつきましては、以上です。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、冬のイベントについてご質問等があれば、お願いいたします。

○成田委員 ちょっと気になったのですけれども、深海生物展は深海だから海の生き物なのですけれども、水族館ではなくて、動物園ですることでもいいのですか。

私は、見に来て、すごく楽しんだのですけれども、水族館ではなくて動物園でやるのかと思ったのです。

○事務局（田中円山動物園長） そういうご批判も一部のみならず、ありました。基本的には楽しんでいただければいいかなと思っております。また、生き物つながりですので、動物園でもダイオウイカをごらんいただければということでございます。

○成田委員 では、今後も海の生き物とか陸上の生き物と分けなくて、何かおもしろそうな楽しめそうなものがあったらやっていきたいという感じですか。

○事務局（田中円山動物園長） 海のものばかりになると、それはそれでちょっとあれでしょうけれども、ダイオウイカはまだ保存してありますね。

○事務局（池田調整担当係長） 今、冷凍庫の中に保存されています。

○事務局（田中円山動物園長） もう一回ぐらいできるかなと思っています。

○事務局（池田調整担当係長） この深海生物を取り扱うとき、動物園の動物たちとの比較もパネル展で行っています。いわゆる、海で巨大になった、陸上でキリンのように大きくなったなど、こういう進化の過程や、深海生物と陸上生物の共通点みたいなことをパネル展などでお示した上でやっています。ですから、海だけのものではなくて、動物とのかかわりの中での仕立てにはしています。ただ、目に見えるところがダイオウイカとダイオウグソクムシなので、そういう印象を持たれたのではないかと思います。

○成田委員 そうですね。私が見に来ててもダイオウグソクムシはずっと黙っていました。ぴくりとも動かないグソクムシをずっと見ていました。

○牧野委員 生き物つながりで、いいと思います。孫が小学校で見に行っ、ダイオウイカのあまりにも大きくてびっくりして、こんなのがいるのだということで、子どもにとってはものすごく興味があったし、そういうものを見る機会もなかなかないので、そういったことではよかったのではないかというふうに感じました。

○成田委員 しかも、外にどんと置いてあったのもおもしろかったですね。

○牧野委員 小学校で見に行ったときには、一般開放ではなく、冷蔵庫に入っていたものを見たのです。

○事務局（田中円山動物園長） 気温が高いと溶けてしまうので、寒いときでも週に1回ぐらいは冷凍庫に1日保存しております。また、2月に入っても展示を続けたのですけれども、そのときには、土・日は出すけれども、平日は冷凍庫の中にしまっております。

○成田委員 楽しかったです。

○金子議長 実際に今期もまたやるような計画もあるのですか。

○事務局（池田調整担当係長） 別なことを計画しています。今、話題に上がっているのは、南極から氷を持ってきて、その氷をさわってみようとか、南極の越冬隊の方に南極生物について講演していただくとか、そういう計画はありますが、これからの調整でございます。

○八木委員 2点ありまして、餌やりのクリスマスプレゼントが40人のところ10人辞退だったのですけれども、これは見越して大目に10人募集したのですか、単純に減ってしまったのですか。

○事務局（池田調整担当係長） これはやり方を失敗したところがあるのです。朝の9時から抽選をして、実際に餌やり体験が始まるのが13時30分でした。ですから、やりたくて早く来た子が当選したとしても、2時間や3時間も待ってられなくて、帰られてしまった方がいらしたのです。

次回に開催するときには、抽選の時間を開催時間に合わせて、すぐ参加できるようにしようと思います。

○八木委員 もう一点です。

スノーフェスティバルが雪まつりに合わせて無料ということだったのですけれども、人

数の内訳として、例えば外国人がどれぐらいいたなどは数えていたのですか。数えていないとしても、何となくごらんになっていたのですか。

○事務局（池田調整担当係長） 体感では、かなりの方がいらっしゃっていました。私は氷の滑り台を担当していたのですけれども、かなりの外国人の方が滑りに来ています。アンケートでも、道外というカテゴリーになるのですけれども、7%ぐらいでしたでしょうか。

○矢橋委員 恋人たちのクリスマスナイトZOOですけれども、この恋人たちは若いのですか。

○事務局（池田調整担当係長） 実は、やり始めた当初はかなり人気があったのですけれども、最近では夜の動物園も直近で行われたりしており、募集してもなかなか集まってこないという状況があります。あるいは、最近では、親子もありですよというふうに条件を緩くして募集しております。

ただ、これについては、当初はマスコミの方も取材に来てくれたのですけれども、最近ではあまりそういうこともなくなってきましたので、役割を終えてきたなという雰囲気があります。

また、恋人に限定しなくてもいいのではないかというお話もありますので、これについては見直しをしていこうと思っています。

○金子議長 それでは、よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、続きまして、4の平成27年度春のイベント事業についてお願いいたします。

○事務局（池田調整担当係長） 春のイベントについてです。

何といても、ホッキョクグマの赤ちゃんの公開が明日からスタートします。ですから、今年の前半はホッキョクグマの赤ちゃんが中心に動いていくこととなります。赤ちゃんの公開が4月1日ですが、初めてプールに入るプールデビューを毎年やっています、4月の下旬ぐらいとしております。

また、ここには書いていないのですが、せっかくのホッキョクグマの公開を盛り上げるという意味で、毎週土・日にホッキョクグマ・〇×クイズ大会を開催しまして、参加し優勝した方にホッキョクグマのかわいいグッズをプレゼントしようかなと思っています。

そして、ゴールデンウィークは5月2日から6日までの5連休となっておりますので、そこでいろいろな催しを行いたいと思います。

まず、ホッキョクグマの赤ちゃんの展示があります。そして、イベントとしては、5月2日のマルヤマンショーで、幼児を対象に考えております。先ほどの道産子ヒーローのソランドラゴンともコラボレーションしていただけることになっています。5月3日は、プリンセスプリキュアという女の子に大人気のキャラクターがいるのですけれども、その東映のプリキュアショーです。5月4日はテレビ父さんのグッズが当たるテレビ父さん〇

×クイズです。5月5日は、戦隊ヒーローショーです。今年の2月からスタートした手裏剣戦隊ニンニンジャーという男の子に大人気のものがあるのですが、そのヒーローショーがごぞいます。5月6日はコカ・コーラ1年分ゲット〇×クイズ大会です。これは、老若男女問いません。

こういった催しのほかに、先ほどもちょっと出ましたが、鳥カフェとして熱帯鳥類館で宮田屋珈琲の出店もこの期間となります。例年、この時期は渋滞がひどいものですから、ばんけいスキー場を臨時駐車場として借りられることになっています。駐車料金も200円ほど割り引いております。ばんけいスキー場から円山動物園までは無料のシャトルバスを運行しまして、満員になった都度に出発するという体制でやりたいと思っています。

広報としては、動物園だよりを市内の全小・中学校、幼稚園、保育園に配付しますが、今年からは、広域圏組合構成市町村や小樽市、苫小牧市までエリアを拡大しています。公式ホームページ、ツイッターなどで情報発信をしていきたいと思っています。

春のイベントについては、以上でございます。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、春のイベントについて何かあったらお願いいたします。

○八木委員 ホッキョクグマの赤ちゃんの定義は、何カ月ぐらいまでですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） PR的には、半年ぐらいは赤ちゃんと呼んでいます。

○八木委員 では、今は3カ月ちょっとぐらいでお披露目なので、あと3カ月ぐらいですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 展示してから大体半年間ぐらいです。

○八木委員 また、鳥カフェに興味があるのです。これはゴールデンウィーク期間のみですか。

○事務局（池田調整担当係長） そうです。5月2日から6日まで限定です。

○小山委員 ホッキョクグマの赤ちゃんの様子がホームページでちょっとでも見られるということはあるですか。

○事務局（田中円山動物園長） 写真や動画ですか。

○小山委員 はい。

○事務局（田中円山動物園長） 今、特設ページを設けていますので、写真は既に公開しています。動画はもうちょっと工夫します。動画はありましたか。

○事務局（池田調整担当係長） 動画は、ユーチューブです。

○小山委員 何かを埋め込んでおくと、それを見てまた来たくなくなるということもあるかもしれませんね。

○高山委員 今朝の新聞で名前を募集するというのが載っていたのですがけれども、いつごろに募集するのですか。

○事務局（田中円山動物園長） 夏ごろです。間違った前科があるので、まずは性別を調べます。

○牧野委員 ばんけい駐車場は、こちらに持っていくことによって200円安いですよということが一つのうたい文句にもなるわけですね。ここに持ってくれば700円で、向こうに持っていくと500円でいけますよということですね。去年は700円でやっていたのですか。

○事務局（池田調整担当係長） 去年も500円です。800台の収容で、1日だけ700台入ったと聞いています。その日は、動物園も2万人の来場がありました。

○牧野委員 そうですね。結局は車で来ますからね。

○事務局（木村経営管理課長） ゴールデンウィーク期間中は、委員もご承知のように、交通規制がかかっていますので、その辺でいい面と悪い面の両方があります。できれば公共交通機関でというPRは引き続きしていきたいと思います。

○金子議長 毎年、駐車場の問題はこの場でもいろいろ大きな問題として取り上げてきたかと思うのですが、最近、トラブルなどはどうですか。

○牧野委員 ゴールデンウィークに集中してしまうのです。だから、せっかく来ても2時間も3時間も待たされたら、見るどころではなくて、お父さん方もいらいらすると思うのです。これがばんけいということになると、大分違うのではないかという気はしますね。

○金子議長 でも、去年と体制的には同じなのですね。

○事務局（木村経営管理課長） そうです。おととしまでは普通に700円でやっていたのですけれども、去年に思い切って500円に落として、その効果はかなりありました。ですから、詰まっているところで待ってから行くのではなくて、初めからばんけいに行く人を増やしたいなというふうに思っています。

○牧野委員 地方の人の場合は場所がわからないということがありますね。だから、結局、ここで待とうかということもあるかもしれません。市内の人だったらわかるのでしょけれども、地方から来られる方が多いでしょうね。

○金子議長 その辺の広報というか、ホームページで駐車場はこちらにということが必要かもしれませんね。

○牧野委員 そうですね。行き方はこうですとはっきりしたほうがいいと思います。

○事務局（池田調整担当係長） ホームページとあわせて、動物園だよりも臨時駐車場の情報は掲載いたします。これは22万7,000万部発行しますので、かなりのPRができると思います。

○事務局（木村経営管理課長） 札幌の近隣の市町村の小学生にも直接渡るようにしていますので、それを見た親御さんや市外の方が直接行っていただければ大分いいのかなと思っています。

○金子議長 行きやすく、地図がはっきり書かれているということと値段も安いことをアピールして、できるだけ交通がスムーズに行くようにすることが大切だと思います。

○牧野委員 待たなくていいというのがいいですね。進むか進まないかわからないのにとずっと並んでいるよりも、多少時間がかかっても、通れたほうがいいですね。

○金子議長 ありがとうございます。

ほかはよろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子議長 それでは、5の円山動物園サポートクラブについて(新アニマルファミリー制度)について、お願いいたします。

○事務局(池田調整担当係長) アニマルファミリーは、今年度末で終了ということで、21日にフィナーレというイベントを行いました。過去7年間を振り返って、趣旨を会員の皆様にお知らせして、ちょっとしたゲーム大会なんかをいたしました。

それにあわせて、明日から新しい動物園のサポートクラブを開設いたします。

今までは動物の個体を応援しようということで寄附金を集めていたのですが、これからは円山動物園そのものを応援していただくというものになります。私たちの動物園をよりよく継続していくために皆さんに協力していただきたいという呼びかけの中で寄附金を募ることになります。

寄附金は一口500円です。今まで一口5,000円というやり方で行っていたのですが、5,000円はなかなか高額で、特にお子さんになるとなかなか厳しいものがあります。ですから、どなたでも一口で参加できる寄附の仕組みをとということで、一口500円にしています。

最終的な目標は、年間2万口の1,000万円としておりますが、初年度は4分の1の5,000人を目標として進めたいと思っています。

集まった寄附金につきましては、基本的には動物のエンリッチメントの向上に役立てます。今までは動物の餌代というちょっと曖昧な形で呼びかけていたのですが、これからは何にお金を使うためにどれだけの金額が必要なのかを明示した上で寄附金を募ろうと思っています。

ちなみに、今回は4月1日に募集をかけるのはチンパンジーの屋内の獣舎の中にちょっとしたロッククライミングができるようなボルダリングを取りつけるため、60万円を目標に呼びかけを行う予定です。

窓口は、正門、西門の券売場です。基本的には動物園にお越しいただく方を対象に考えていますので、券売場のところで寄附金の受け付けをあわせて行います。

また、寄附金をいただく方についてはサポーターという位置づけにしたいと思っております。サポーターとは、会員ではなくて、いわゆるコンサドーレのサポーターというようなイメージで、応援する人たちという位置づけで、運営には携わらないのですが、円山動物園を応援する人たちという位置づけでサポートしたいと思っております。

サポーターに対する特典として、寄附金一口に対して動物カードを1枚差し上げる予定です。これには通し番号がついています。将来的には通し番号を使って何らかの抽選会のような催しも検討しています。今年度についてはまだその予定はございませんけれども、将来的にはそういうものにしたいと思っています。

また、動物カードをお持ちで、希望者の方には、メルマガを配信する予定です。メルマガには、これまでのアニファミ通信のような、飼育員目線で動物たちの様子を伝えるという内容のもので、毎月発行します。また、動物カードを提示していただいた際には、夏や冬のイベントのときにこちら側で指定した日に提示していただくと記念品をという企画も検討しております。

今、ホッキョクグマのポスターを刷り上げるところですけれども、これを多数刷り上げて、早速、動物カードの提示でホッキョクグマのポスターをプレゼントすることを検討しています。その他の特典については、今のところ検討中でございます。

サポートクラブの運営体制ですけれども、今までは動物園として寄附金を直接受け入れておりましたが、これからは動物園を応援していただく企業や学識者の方、そして、ボランティア団体が共同運営することとなります。そして、動物園は事務局として携わることになります。企業から運営費を頂戴して、その使い道についてはその団体が議決して決定し、その議決に沿って動物園の事務局がそれを執行していくということになります。

実は、金子議長にサポートクラブの会長職に就任していただいています。企業としては、北海道コカ・コーラボトリング社、コープさっぽろ、円山動物園ボランティア会の会長にそれぞれ会員となっていただいております。

サポートクラブについては、以上でございます。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、サポートクラブについてご質問等をお願いしたいと思います。

○矢橋委員 今、例えばとして、ボルダリングについてありましたが、当初から、例えば、ボルダリングを設置したいので、寄附金がこれぐらいあればできます、だから、これぐらいを目標額に集めますというものはよくネットでやっていますよね。ああいう寄附金の集め方はこれにはそぐわないということなのではないでしょうか。

○事務局（田中円山動物園長） クラウドファンディングとはちょっと違います。

ただ、仮に60万円が集まらないと、そういう意味では、クラウドファンディングはできないことになってしまいますけれども、貯まるまで頑張るみたいな感じになるかなと思います。

○成田委員 引き続きですけれども、ということは、チンパンジーのロッククライミングの施設は60万円なので、60万円に行くまでは次の募集はしないのですか。

○事務局（池田調整担当係長） はい。

○成田委員 では、早くそれが行ったらすぐ次だけでも、行かなければずっと頑張るのですか。

○事務局（田中円山動物園長） 最初にいただくときに、最初のお1人目からそういうふうをお願いしており、違うものというわけにはいかないとしますので、当初の目標をまずは頑張ります。

○成田委員 チンパンジーに寄附したかったのだけれども、60万円に行ってしまったら

終わりとなると、それはどうなりますか。

○事務局（田中円山動物園長） 次のものをすぐに立てて、そちらに充当されることになると思います。

○成田委員 動物カードは、買えるのですか。例えば、チンパンジーのだからチンパンジーで、次はシロクマだったらシロクマにするということですか。

○事務局（池田調整担当係長） 動物カードは記念品の位置づけにしております。販売となると、売買行為になってしまい、課税対象になってしまうのです。ですから、これはあくまで記念品ですということで、お客様はそれを選ばず、順番にカードが渡されていきます。

○事務局（田中円山動物園長） 20種類でしたか。

○事務局（池田調整担当係長） 20種類ございます。

○事務局（田中円山動物園長） どれが行くかはわからない、と。

○成田委員 通し番号がついており、何が当たるかはランダムになっているのですね。

○事務局（池田調整担当係長） そうです。20種類の動物のカードをランダムに渡します。

○成田委員 通し番号でいくので、飛ばしていくわけではないのですね。

○事務局（池田調整担当係長） もし仮にコンプリートしたいという意欲のある方は、1万円を出していただくと、20種類がその場でそろいます。ただし、次の日に5,000円ずつ買ってしまおうと被ってしまう可能性はあります。

○成田委員 そういうふうになっているのですね。

○金子議長 大口の人をいかにして集めるかということですね。

○成田委員 コンプリートは20種類なのですね。

○高井副議長 先ほど、矢橋委員が言ったクラウドファンディングの枠組みですけれども、多分、二つ要素があると思います。

一つは、貯まる要素が目で見えるところがクラウドファンディングのおもしろいところだと思うのです。

もう一つは、今、20種類をコンプリートという話がありましたけれども、出した額に応じて何らかのインセンティブがあるということですね。しかし、先着順だから、あと一つしかない、二つしかないとか言って、やるということだと思うのです。

ボルダリングなど、具体的に決まっている場合には、例えば10万円出してくれた人には、あなたも猿になれるというようなボルダリング体験ツアーを先着2名で組むなどです。そして、5万円ぐらい出してくれた人は、猿に直接餌やりをして、猿から感謝を受けられますというふうな感じで、ランクをつけて、それで、俺はボルダリングをやりたいという人がゲーム感覚で争うところがクラウドファンディングのおもしろいところだと思うのです。ああいうのはうまく取り入れられないものでしょうか。

○事務局（田中円山動物園長） とりあえず、今回はサポートクラブをこういう形で始め

て、その実施状況を見たいと思っております。ただ、ほかにもいろいろな寄附をいただかなければいけないものがたくさんありまして、そういった中にそういうことがあるとは思っています。とりあえず、これをやってみて、1年間で目標に全然行きませんでした。では、どのような工夫ができるかを考えるときに、今みたいなお話を参考にさせていただくということになろうかと思えます。

とりあえず、これで初年度は始めてみようということですか。

○金子議長 今、ボルダリングの次のアイデアはあるのですか。

○事務局（池田調整担当係長） その後は、エゾシカ・オオカミ舎で植樹をするという希望があります。苗木を植えても動物たちがかんでしまって育たないということが起こるものですから、ある程度きちんと生育した木をしっかりと植え込むということをしてほしいのです。しかし、市の予算がなかなか配分されがたい部分がありまして、そういうところをご協力いただければと思います。

○金子議長 なかなか難しいですね。本来、動物園の予算で賄うべきものと寄附で少し楽しみも入れて整理するものをうまく分けないと、急いでやらなくてはいけないけれども、お金が集まらないからいつまでたってもできないというふうになってしまうとまた困るでしょうね。

○事務局（田中円山動物園長） だから、必要な設備と、エンリッチメントと先ほどから言っていますけれども、付加価値的なもので線を引こうか思います。

最初に申し上げたように、今までは、餌代ですから、消えているというところがありましたので、今回はできるだけ目に見えるものを残し、しかも、エンリッチメントに寄与するものに対象構築物を変えていければと思っております。

○金子議長 動物園の中だけで寄附を募る形ですね。それこそ、ネットを使ったり、コープさっぽろでイベント的に寄附金を集めるようなことを店先でやったり、そういうようなことはやらないのですか。

○事務局（田中円山動物園長） とりあえず、サポートクラブについてはこの手法でやりたいと思っております。先ほど違う寄附という形で申し上げたのは、例えば、象の施設をつくる時に大口の寄附が必要になりますので、今、ふるさと納税というものが言われていますけれども、そういう広報をして大口で、しかも、広範囲の、可能であればネットも活用した寄附を工夫しなければならないと思っております。

○小山委員 民間団体が寄附金の受け口になったから税制優遇がないということでしょうけれども、例えば、札幌支援の指定寄附みたいな形で動物園の環境整備に寄附をするということであれば、税制優遇の対象になるのですね。

○事務局（田中円山動物園長） なります。

それは、今、門戸を閉ざしているわけではなくて、サポートクラブで一口500円いただく方はこの方法で、大口の、または、ふるさと納税について先ほど申し上げましたけれども、そういう税制優遇を受けたい方は市に直接申し出をいただければ控除の対象になり

ます。

○小山委員 3,000円以上や5,000円以上だったら、10口やるのだったらそちらのほうが良いという話になりますね。

○矢橋委員 そういうものにさぼーとほっと基金は使わないのですか。

○事務局（田中円山動物園長） さぼーとほっと基金ですと、使途が動物園ではなくて市民活動になってしまいます。ですから、基金の趣旨が違うので、そちらは活用できないのです。

○小山委員 受け口団体がさぼーとほっと基金に登録するというのもだめですか。

○事務局（田中円山動物園長） 市民団体がそれを活用して動物園に寄附するという事になって複雑になってしまうので、それはやめております。

○小山委員 複雑だと怪しい感じを受けます。

○八木委員 このこととはずれるかもしれないのですけれども、象だと大口にということで、こちらのサポートクラブでは現実的に必要なものからという感じにして、それはお子さんが参加しやすいということで500円という金額を決められたということでしたね。お子さんが象やホッキョクグマなど、大分先だけでも、夢のある計画に何か乗れるような施策はあるのでしょうか。

○事務局（田中円山動物園長） 基本的には、現在でも、例えば象のために500円を寄附したいと言っていた方には支援の直接寄附という門戸がありますので、それはできるのですが、今、我々としては積極的に広報していない段階です。

象に限らず何でもそうですけれども、そういう整備計画があって、お心がある方にはこういうふうなものがありますということをどんどん広報していかなければならないということで、それは別途やっついこうと思っております。

○八木委員 とてもいいアイデアだと思ったので、タイル1枚やブロック1個でも、自分のしたことが3年後など、ちょっと大きくなったときに、子どもが見られるものが残っていると、子どもの成長の中でもいいなと思いました。

○事務局（田中円山動物園長） 前回の会議にも出たかもしれませんが、象舎のタイルに名前を書いています。

○八木委員 そのことです。そのことも継続してほしいと思います。

○金子議長 1案件に、5、60万円ぐらいの目安のものですか。

○事務局（池田調整担当係長） そうです。今のところ、続けてきているのはそのぐらいの規模です。特別な餌をあげる日などだと5万円や10万円というパターンもあります。

○金子議長 どれぐらいで集まるのですか。

○事務局（田中円山動物園長） 走り出してみても、集まり状況によっては規模が大きくなったり小さくなったりすることは十分考えられます。

○金子議長 これなら嫌だなみたいな人のために、一つずつではなくて、二つぐらいどちらかにみたいな形でもいいのかなという気がします。

○事務局（田中円山動物園長） いただくときに、例えば、四つくらいの目標をつくり、それを選んでいただくかという案もあったのです。手続と集まりぐあいというか、金額が散らばるとまたあれかなということで、今回はとりあえず一つずついたしました。

○小山委員 もっと集めようということで、広範囲からたくさん的高額なお金を集める場合、例えば象のことになればそういうことになると思うのですが、そのときは動物園の広報をするとすると、こちらを少し抑えてそちらのほうに行くということになりますか。なかなか両立しないかなという感じがするのです。

○事務局（田中円山動物園長） 多分、抑えてということではないかと思います。

○小山委員 今、こちらが2,000円以下だったら、どうせ税制優遇がないのだから、象を両方で展開するという手もあるのでしょうか。

○金子議長 動物園に寄附することに特化するのであれば、クラブになるのかはわからないですけれども、公益法人化して、寄附を受け入れて、税制優遇が受けられるような仕組みも必要なのかなという気はします。しかし、動物園として組織を別途つくること難しいところがあるのですか。

○事務局（田中円山動物園長） 新しくつくるというよりは、多分、ふるさと納税という制度を使って市が直接受けるほうがわかりやすいかなというふうに思っています。

○小山委員 公益法人をつくったら管理運営が大変ですね。それだけはやめたほうがいいと思います。

○金子議長 わかりました。ほかにいかがでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 ありがとうございます。

続いて、6の新着動物等についてお願いいたします。

○事務局（柴田飼育展示課長） ちょっと少ないです。

主な新着です。

12月にシマフクロウの雌が入りまして、今、雄が1羽だけおりますけれども、繁殖を目指して、同居を始めております。それから、12月にホッキョクグマ、2月に猿の仲間のスローロリスが産出しております。

転出関係です。

11月にエランドの雄をほかの動物園に出しております。それから、ニホンザルが1頭、ショウジョウチャボというニワトリが寿命、または、内臓疾患で死亡しております。

主なものは、以上でございます。

○金子議長 ありがとうございます。

それでは、これにつきましては、よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 ありがとうございます。

最後に、その他ですが、いかがでしょうか。

○事務局（池田調整担当係長） フェイスブックについてです。

今までは、「円山動物園+」というフェイスブックのページを市民動物園会議が運営しますという位置づけでずっとやってきたのですけれども、今、サポートクラブという団体ができまして、新しいサポートクラブという団体がフェイスブックページを引き継いだほうが情報発信をする中でいろいろとやりやすいのではないかと考えております。

今まで投稿なさっていた方に関しては、今日から投稿できなくなるわけではなく、継続してやっていただくことが可能です。ただ、フェイスブックページの位置づけにつきましては、動物園を応援するという意味合いでタイトルを示していたので、これについては新しいサポートクラブが運営を引き継ぐということで進めたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○金子議長 いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○金子議長 では、サポートクラブで「円山動物園+」というフェイスブックを引き継ぐということです。また、今まで市民動物園会議のメンバーの方でも投稿していただいている方は、引き続き投稿していただけるよう進めるということによろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○金子議長 ありがとうございます。

○矢橋委員 それはいつからですか。

○事務局（池田調整担当係長） 4月1日からです。

○矢橋委員 ついでに済みません。

先ほど、イベントでの告知媒体です。ホームページとツイッターがよく出てくるのですが、ここでフェイスブックが出てこないことに違和感があったのです。

○事務局（池田調整担当係長） 実は、公式ツイッターという位置づけでやっているのですけれども、市の広報セクションからSNSは2種類にしてくれというオーダーがありました。今、既存のフェイスブックは、市民動物園会議という位置づけでやっておりましたので、広報課からの目線でいけば外部ページとなっています。それを継続していくに当たって、市民動物園会議からサポートクラブに引き継いだほうが、より官民連携の組織となり、動物園を応援するというスタンスとなりますので、いろいろな情報操作がしやすく、運営しやすくなりますので、そういう取り扱いが一番現実的なのかなと思います。

○矢橋委員 ついでですけれども、先般、地下歩行空間でお目にかかって、マルヤマンと一緒にやっていらっしゃいますね。私は地下歩行空間でそういう場面をよく遭遇します。非常に頑張っているということがよくわかります。ブログペーパーもよく読まれているということで、引き続き頑張ってください。

○成田委員 一つ質問していいですか。

メールで来る今日のお知らせみたいなものがありますね。

○事務局（池田調整担当係長） 動物園ニュースですか。

○成田委員 私はフェイスブックをやっているのですけれども、あれはあのまま載せてしまっても問題はないのですか。

○事務局（池田調整担当係長） 問題ありません。

○金子議長 一部、報道機関の皆様でしたか、そういうような方たちが来ますよね。

あれがPDFとかになってしまっていると、あれをそのままやると横流しみたいな感じになってしまうかなと思って、少しあそここのところを消してもらうなど、ほかでも2次利用ができるようになっていたほうがいいかと思います。

読むほうはいいのですけれども、それを誰かに知らせようとする、報道機関用の記者発表の紙をそのまま出すというわけにはいかないだろうと思って、僕が「円山動物園+」に出すときはコピーをしたり、加工をしたりしなくてはいけないのです。その辺はほんの少し配慮をいただければ、いろいろ広報もできるのではないかと思います。

ほかはよろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 それでは、予定しておりました議事は、以上です。

いい残したことがございましたらお願いしたいと思います。

（「なし」と発言する者あり）

○金子議長 それでは、事務局にお返しいたします。

○事務局（田中円山動物園長） 長時間にわたりまして、熱心なご議論をありがとうございます。

今日いただいたご意見を参考にさせていただいて、引き続き、新年度も動物園を運営してまいりたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

まずは、次回の予定ですが、おおむね6月ごろを予定させていただいております。今年は市長選であり、骨格予算となっております、新しい市長が決まりますと、今度は肉付け予算という政策的な予算を新市長のもとで、もう一度審議して予算計上することになっています。そのときには、恐らく、象の話などが具体的に予算的に出てくると思いますので、そのご説明ができるものと考えております。

ただ、皆様の任期ですが、2年でございまして、平成27年8月いっぱいをお願いしているところがございます。まずは、公募委員の3人につきましては改選となり、5月ごろから改選の手続に入り、9月から新しい公募委員の方をお願いすることになります。

その他、こちらからお願いしている皆さんにつきましては、3期6年という上限が定められております。今、拝見しますと、皆さんは2期目でございますので、もし差し支えなければ、もう1期お願いできればと考えております。牧野委員からは退任ということもありますけれども、その辺は調整させていただきたいと思います。

ですから、8月末までの任期でとなりますから、6月にこのメンバーでの会議をもう一度予定させていただきたいことをお知らせ申し上げたいと思います。

3. 閉 会

それでは、これにて、第23回の市民動物園会議を終了させていただきます。
今日は、どうもありがとうございました。

以 上